

経営理念	【保育目標】あふれる笑顔 ともち大好き みどりっ子
	【経営目標】『子ども一人一人を大切に、保護者に信頼され、愛される保育所』をめざす
	<子ども像>○あいさつができる子ども
	○あかるく元気な子ども
	○思いやりのある子ども
	○最後までやりぬく子ども
	○友だちと協力しあう子ども
	<保育所像>○一人一人の子どもを大切にする保育所
	○基本的な生活習慣を身につけ、しなやかでたくましい子どもが育つ保育所
	○夢を育み、子どもの笑顔が輝く保育所
	○保護者、地域から信頼される保育所
	○地域を理解し、保護者とともに子育てをする保育所
	○保小中高の連携を大切にしている保育所
	<保育士像>○子どもとの信頼関係を大切にしている保育士
	○保護者によりそい、信頼関係を築く保育士
	○意欲を育む環境を考える保育士
	○チームワークを大切にしている保育士
	○豊かな人権感覚を身につけた保育士
	○専門性の向上に努める保育士

中期経営目標		短期経営目標 (評価項目)	自己評価		保育所関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
保育・教育活動の充実	○ 乳幼児期の発達や学びを踏まえた環境作り	① 子どもの育ちや興味関心に合った、室内外の教材や環境構成の見直しに取り組み、やりたいことが実現できる環境作りを行う	保育者一人一人が子どもの反応や遊ぶ姿を注意深く見るようになり日々環境を見直すことで、子どもの姿が変わっていくことを実感できた。素材の種類を増やしたり、置き方を工夫したりと、日々小さな環境の見直しにも取り組んだ結果、保育者が提示した素材や遊具を使って遊ぶ子どもの姿につながった。	B	既製のもでなく手作りや自然物を環境によく取り入れていた。職員評価結果からも環境の改善に取り組み、職員が子どもの変容を感じることができていた。	B	引き続き、子ども理解を保育の実践に活かしていくための環境構成の見直しに取り組み、計画的に教材研究を取り入れて園全体で学びを深め、保育の充実につなげる。
		② 一人一人の子ども理解に努め、特性や発達、ねらいに適した援助の工夫を行う	保育者は、子ども一人一人のその子らしい見方、感じ方、考え方を理解しようと努め、発達に必要で有効な援助を探ることができた。成果として生活や遊びへの意欲が向上した子どもが60～70%となった。しかしいつも同じ援助が有効なわけではなく、その日その時の状況や思いに合った適切な関わりは十分ではなかった。	B	子どもたちが落ち着いて園で過ごしていると感じる。これからも一人一人の子ども理解に努めながら、職員が協力し合って支援について考え、実践していったほしい。	A	様々な視点から子ども理解ができるよう保育者間で伝え合い話し合っていくことと専門機関の助言を取り入れながら、実践と振り返りを行い一人一人に合う援助につなげていく。
		③ 食べることへの興味や関心につながる食育活動の工夫を行う	栽培等様々な食育活動で、各年齢の発達に合った大切にしたいことは何かを考えながら子どもへの言葉がけを意識して行ない、必要な物や遊びを考えて保育に取り入れた。その結果、食に興味や関心を持った子どもが60%以上となり、野菜の名前が言えるようになった子どもや、苦手な食材を食べてみようとする子どもが増えた。	B	生きる力を育む食育活動の実践を乳幼児期から大切に取り組んでいったほしい。	B	計画的に食育活動に取り組むと共に、保護者の食育への意識が高まるように、園の取り組み発信の工夫を行い、家族や友だちと一緒に食べる楽しみや、食べたいもの、好きなものが増えるような実践を家庭と共に取り組むことを目指す。
職員の育成・資質向上や運営	○ 共通課題に向かう職員の協力体制づくり	① 伝え合うこと、話し合うことを意識し、各学年の子どもの育ちを共有しながら協力して保育に取り組む	各年齢の保育を伝え合う場をもつことで、子どもの変化や成長を共有し、共に喜んだり考えたりして園全体で子どもの育ちを見ていくようになり、保育者一人一人の保育の振り返りが組織全体の学びの深まりへとつながった。各年齢の保育を伝え合い、話し合うことで、声を掛け合い協力し合う職員集団となってきた。	B	職員数が少ない中で、協力し合って毎日の保育を進めている。これからも協力的体制づくりに努めてほしい。	A	安心できる職場環境の中で、経験知に関係なくそれぞれが考えていることを出し合い、一人一人の思いやよさを生かしながら組織として助け合い高め合えるように、保育についての様々なことを話し合える体制づくりに取り組む。
		② 避難訓練の実践から成果や課題を話し合い改善を進める	事前の話し合いでは災害時の判断やどう動くべきか等を話し合い、職員一人一人が自分の役割を意識して訓練に取り組んだ。また事後の話し合いで出された疑問や課題を共有することで次に活かされ改善へとつながった。発達段階に応じた子どもへの言葉がけについても意識して取り組み、その結果訓練を怖がる子どもはいなくなり、保育者の話をよく聞くようになった。	B	日々の訓練の積み重ねが大切だと思うので、気づいたことを次へと生かしながら、子どもたちの命を守るための避難訓練を続けていったほしい。	A	事前事後の話し合いを続けながら、引き続き避難訓練の改善に努める。また、次年度は保護者が避難訓練に参加し避難タワーに上る機会を計画して保護者の安心につながる発信や取り組みの工夫を行いたい。
地域に開かれた園づくり	○ 保護者や地域等共に子どもの成長を支え、信頼される保育所づくり	① 子どもの育ちの姿や保育者が大事にしていることの保育説明を、保護者の安心につながるように工夫して行う	保護者と直接話せる機会を大切に伝えたり、便りでは子どもの思いが想像できる写真を選び、今保育で大切にしていることを伝えるよう心がけた。また連絡帳にも写真を貼ったり、ドキュメントをタイムリーに掲示したりして、一人一人の職員が様々な手法で保育説明に努めた結果、60%以上の保護者が子どもの成長を喜び、口頭や連絡帳で伝えてくれた。	B	様々な発信の工夫がされている。保護者に保育を伝えることは大切なことであるので、これからも保育説明に努めてほしい。	A	保護者への丁寧な保育説明に取り組む中で、分かりやすい言葉や写真等の視覚の工夫に引き続き取り組んでいく。昨年度は個々が工夫して取り組んだので次年度はそれぞれの発信の工夫を共有しながら園全体でより良い発信を目指して実践していく。
		② 保護者の思いを受けとめながら、子育ての楽しさや喜びを感じてもらえるように支援を行う	年2回行う個人懇談や、日々の中で直接話ができる機会を大切に捉えて、少しでも子どもの姿を伝えたり保護者の思いを聞いたりするように心掛けた。その積み重ねから家庭での出来事や相談を保護者がしてくれるようになり、保護者アンケートからも保育者に相談できると感じている保護者75%、ややそう思う25%となった。	B	様々な悩みを抱えながら相談することができない保護者もいると思うので、日々の積み重ねを大切に保護者となつながつていったほしいと願う。	B	保護者が自分の気持ちを保育者に伝えやすいように、職員一人一人が日々信頼関係づくりに努める。また職員間で役割分担を行いながら、タイミングを見計らって声を掛けたり面談を行ったりして保護者に寄り添った支援を探っていく。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要